

ては重点プロジェクトの一つに掲げているところまでございまして、現在、幹線道路を走る自主運行バス、路線バスや地域を細かくネットワークする福祉バス、スクールバス等について、新町全体の観点から運行ダイヤ、本数、路線、料金体系の見直しなど検討を進め、昔の陸運局でございまして、現在の岐阜運輸支局と協議を進めております。

次に、能舞といえますか、薪能ということ、文化のまちづくりの復活をといて御質問でございしますが、新揖斐川町は私がいつもお話ししておりますように、先人が培った歴史、あるいは伝統文化といったものの宝庫でございまして。御指摘の、現在、久瀬小津地区の白山神社には能面が27面、日坂地区の春日神社には21面の能面が保存をされ、うち46面が昭和60年10月に岐阜県の重要文化財に指定をされております。この能面を利用した能狂言を演じたらどうかということでございますが、昭和48年に発刊されました久瀬村史によりますと、小津の地区では能狂言が演じられたという伝承もなく、日坂地区では1746年には既に中止されていたと書かれておりますので、それ以前には能狂言が行われていたようですが、現在ではどのような能狂言が演じられておったかということが不明な状況でございます。議員もお話しありましたように、これは白山信仰とのかかわりとあわせ、今

年度から始めております次の世代へ受け継ぐための調査を進めておりますが、こういった面を含めまして今後考えてまいりたいと思っております。

問 「新小野坂トンネル」の着工への進捗状況と今後の取り組みについて

県道揖斐川・谷汲山線の小野坂トンネルの老朽化に伴って要望してきた新小野坂トンネルの早期実現に向けての現在の進捗状況と今後の取り組み、あるいは見通しについて質問したいと思います。平成8年から10年ぐらいに全国各地で老朽化したトンネルの崩落事故があり、死者も出ました。そこで、建設省、国土交通省の指示で全国の古いトンネルの危険度について調査が行われました。平成11年に岐阜県では当時の馬瀬村、明宝村にあるトンネルとこの現在の小野坂トンネルの3カ所が崩落危険トンネルに指定されました。そんな心配から、平成11年12月に旧揖斐川町と旧谷汲村、それにアドバイザーとして揖斐土木事務所の参加を得て、新小野坂トンネル道づくり委員会が結成され、今日に至っております。

この委員会は回を重ねること6回、県への陳情等も含めると10回以上の会合をしてきました。今年は今

併等もあり、まだ委員会も開かれておりません。この新小野坂トンネルができれば谷汲山や横蔵寺への観光バスの通行も可能になり、そこからさらに乙原トンネルを通り、やがてできる観光地徳山ダムへの観光道路となることは間違いありません。また、今非常につづら折りの坂で難儀をしておられる高校生等、谷汲中から揖斐高、そういうことが解消することから、揖斐高校や池田高校、更には大垣、先程から話が出ております近鉄線への乗客、通学者も多くなり、町内への買い物も増えるのではないかと考えております。

住民は新小野坂トンネルの実現を一日も早く願っております。進捗状況について、町長のお考えを伺います。

答 宗宮孝生町長

旧揖斐川町と谷汲村、双方における住民代表による新小野坂トンネル道づくり委員会が平成14年3月に結成され、16年3月まで6回の委員会を開催し、最適な整備ルート提言を、事業の円滑な実施をするため、意見交換及び計画立案を行ってまいりました。この委員会は、アドバイザーでございます揖斐建設事務所長より概要の説明及びルート案を提示されておりますが、これによって検討をし、ルート案については周辺地域における土地利用、文化財保護、

走行性・利便性等あらゆる要因について比較検討を行い、平成16年3月の時点では谷汲地域で一つの案、1ルート、揖斐川地域で3ルートの案の意見が出てまいりまして、委員会として協議をされております。旧揖斐川町におきましては独自に小委員会を開き、谷汲地区のルート案を基本に、揖斐川側について、町村合併後の平成17年7月に旧揖斐川町の委員さんとの打合せを行い、ルート案についての検討を行い、揖斐川1ルート案で地元協議を現在進めておるところでございます。このような状況の中で将来の道路計画を考えまして、周辺における国道、都市計画道路、あるいは広域的アクセスを視野に入れながら、最適なルートとして決定をしていくよう検討をしております。

問 「根尾、谷汲、大野線」の拡幅について

根尾・谷汲・大野線の拡幅について町長の取り組み姿勢といえますか、意気込みをお聞かせ願いたいと思っております。

この道路は、谷汲から大野町や神戸町、大垣市への昔からの幹線道路